

地区大会を造反する

綾部 神内 重明

ロータリーの真髄を知るためには、地区協議会、地区大会、インターシティ・ゼネラルフォーラムへ積極的に参加することだと先輩ロータリアンから教えられ、過去幾度か参加してみました。

毎度、大会の運営ぶりを拝見するとき、その設営のうまさ、議事進行のスピーディさには感心いたします。そうして当番クラブのホストぶりには敬服するしだいです。

会場にR I会長のターゲットを掲げ、年度の運動方針を徹底し、いくつかの知識を持っていただくべく、ホストクラブは心を配っていただける様子です。しかし私には何かものたりぬ空虚な心がいつも残ります。

R I会長は毎年新しい人が選出され、その人らしい努力目標を打ち出される。場内でそのターゲットを見て、今年はこのことにも心すべきだと読みとり、自分の勉強不足を反省するチャンスにはなります。

しかし、残念なのは壇上にならばれる来賓の諸賢です。パストガバナーが、ずらりとならんで着席される姿をみると、何かこの時機にあたって、ひな壇には根本的なメスを加える必要があるのではなからうかと考えます。その年度のR I会長の考えをくみとり実践し、遂行へ指導していくのはそれぞれの地区の現在のガバナーであり、また各地のクラブの会長であるはずで、それにはクラブ会長が、会長の手足となって仕事をすすめられているはずで、ですから、現在のガバナーが扇のかなめであれば会長はそれぞれ骨にあたられる人々であるべきでしょう。ところが、当日の会場にはそんな様子はいずれもありません。現ガバナーはパストガバナーの接待に手一杯、会長に引率されクラブ単位に集って登録を済ませ、機会あらば早く会場から逃げだそうとメンバー1人1人がその機を伺っている様子。時間の経過とともに場内のメンバーは数少なくなっていくます。

パストガバナーは神格化され、メンバーは神々にひれ伏して拝むに似た光景が感じられる。進行上無理なからしむことなのかも知れませんが、現代流のシステムから考えれば、ひな壇上はガバナーとそうして各会長が着席されるほうが、当を得ているのではないのでしょうか。人々に各地のクラブ名や会長の姿が読みとれ、その人達の苦勞を理解してあげることもでき、協力を誓う機会にもなるのではないかと考えます。なんとしても、メンバーが期待して集まり、知識を得る喜びを感じ、また各地のクラブの方々とも親交が得られる大会を期待しているのは、私一人ではないと考えます。

大会が、形がい化しないことを願って、ロータリアンらしからぬ考えを発表させていただきました。みなさんの御批判を仰ぎたいと考えます。

(電気機械製造 京都府)